

II

四国がんセンターにおける家族性腫瘍への取り組み

大住省三、青儀健二郎、那須淳一郎、久保義郎、ウロブレスキー順子、
田所かおり、菊屋朋子、井上実穂、谷水正人

国立病院機構四国がんセンター家族性腫瘍相談室

四国がんセンターは愛媛県松山市にあり、愛媛県の都道府県がん診療連携拠点病院として、小児がんおよび脳腫瘍を除く腫瘍性疾患の診療を行っています。平成18年4月に以前の松山市の中心（松山城のお堀の中）より、現在の郊外に移転いたしました。市街地からのアクセスは少し悪くなりましたが、病気の治療を受けるには望ましいのどかな環境が回りにあり、病院から西日本最高峰の石鎚山も望めます。また、病院の病棟からは、天気の良い日には海も望め、まさに四季の移り変わりを肌で感じられるところです。

家族性腫瘍相談室の取り組み

さて、四国がんセンター家族性腫瘍相談室は平成12年10月に開設され、主に家族性乳癌と家族性大腸癌（FAPとHNPCC）の患者さんならびにその血縁者を対象に活動をしています。現在その体制は医師6名（消化器内科医2名、消化器外科医1名、乳腺外科医2名、婦人科医1名）、看護師1名、臨床心理士1名、データ管理者1名です。さらに院内のがん相談支援・情報センターと協力しながら、家族性腫瘍関連の相談に随時対応しています。平成1



徳島の大步危にて

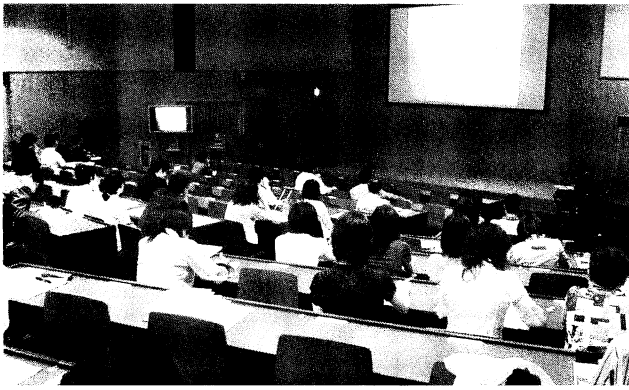
2年に家族性腫瘍相談室を立ち上げの時点から開始したことは、入院される患者さん方の家族歴の聴取の徹底でした。原則として、入院して来られる患者さん全例を聴取の対象としています。担当医師の多忙さならびに家族性腫瘍に対する関心の低さのため必ずしも十分な情報を集めているとはいえない状況です。その中でも、対象としている乳癌、大腸癌での聴取率はまずまずで、特に乳癌では72%程度の聴取ができていました。平成12年11月から平成19年2月までに乳癌を発端者とする家系1232家系の家族歴を聴取し、そのうち家族性乳癌と思われる家系53家系を同定しています。また、大腸癌では822家系の家族歴の聴取ができ、その中でFAP16家系、HNPCC31家系を同定しています。これらをデータベース化して、必要なときにはいつでも対応できるようにしています。

定期的な活動としては、毎月1回家族性腫瘍相談室の構成メンバーが集まり、1ヶ月間で集積された家族歴調査票に目を通し、家族性腫瘍の家系の同定を行い、さらにカウンセリングのできた家系でのカウンセリングの内容の報告、今後の活動の打ち合わせなどを行っています。

さらに、家族性腫瘍の勉強とカウンセリングの技術を磨く目的で、毎年8月に開催されている家族性腫瘍カウンセリングセミナーに当相談室から可能な限り多数のスタッフの参加をさせていただいております。今まで私の7回の参加を最多参加回数として、5回、3回出席したものもおります。

遺伝子検査体制の充実

家族性腫瘍のカウンセリングで重要な部分であ



第1回四国がんセンター家族性腫瘍セミナー開催風景

る遺伝子診断については、大腸癌では厚生労働省の班研究にて辛うじて行えています、乳癌では実質的にはできていない状況でした。また、大腸癌での遺伝子検査も班研究での検査のみに依存している、遺伝子検査を永続的に行っていくことができないことから不安がありました。このことは当院の家族性腫瘍相談室の活動範囲をかなり制約していたと思われる。そこで、信頼に足る遺伝子検査を永続的に行っていく目的で、ファルコ社での外注の遺伝子検査を行えるようにすべく、昨年1年間活動してきました。まず、当院職員ならびに近隣の医療機関のスタッフの家族性腫瘍に対する認識を高めさせていただく（これがひいては、遺伝子検査の需要を高めると考えられます）ことを目的に、当院で平成19年6月17日に第1回家族性腫瘍セミナーを開催いたしました。このセミナーには家族性腫瘍学会の重鎮の先生方多数のご参加をいただき、家族性腫瘍特に乳癌と大腸癌の基礎から臨床、さらにカウンセリングに至るまで幅広くかつ深い内容のご講演を賜りました。早朝から夕方までのハードなスケジュールであったにもかかわらず、100名を超える多数の方々のご参加をいただき、特に私の管轄の乳腺科病棟の看護師さん達から大変勉強になったとの声を多数頂きました。一方、実際の遺伝子診断の外注の契約には当院の場合、倫理審査委員会からの承認を得ることを要求されましたため、これに半年以上の時間を費やしました。遺伝子検査のもっとも力を発揮する分野である一方で、社会的差別や人権問題のかかわる難しい分野でもあるため、倫理審査では困難を極めました、修正を繰り返しながら申

請を3回行い、やっとのことで本年1月承認を頂きました。ファルコ社との契約（APC、HNPCC、BRCA1、BRCA2、RET、MEN1の外注契約）も無事済ませることができ、これで当院家族性腫瘍相談室は一人前となったと思っております。

より質の高い遺伝カウンセリングを目指して

今後はカウンセリングをいかにスムーズに行っていくかが最大の課題となります。今まで遺伝子診断が十分に行えない状況があったため、こちらから家族性腫瘍の家系の方々に積極的にアプローチしていくことをためらっておりました。しかし今後は家系的に癌に罹患するリスクの高い方々には十分なカウンセリングをしつつ遺伝子診断およびサーベイランスを行うようになります。現状ではカウンセリングのすべてを家族性腫瘍相談室の医師が行っていますが、全員本来の診療があり、その合間でカウンセリングを行っておりますので、カウンセリングを行っている時間が準夜帯になっていることが非常に多いのが実状です。さらに診療が非常に多忙であるため、カウンセリングに十分な時間をかけられないのが悩みの種となっています。そのためクオリティの高いカウンセリングを行うには、専任の遺伝カウンセラーの確保が必須と考えております。現在当院院長もかなり遺伝カウンセラー採用には前向きで、私達の地道な活動が実を結ぶ日も近いと予感しています。

四国がんセンターは地方がんセンターの中では家族性腫瘍に対して、非常に前向きに取り組んできたと思っておりますが、それでも欧米諸国に比べるとやっとな産声をあげた赤ちゃんのレベルであるとも自覚しております。さらに精進を重ね、何とか海外の家族性腫瘍の診療レベルまでもっていき、海外での学会発表や英文での研究発表ができるようにしたいと思っております。

今後ともご指導をよろしくお願い申し上げます。

■ 連絡先

国立病院機構四国がんセンター
〒791-0280 松山市南梅本町甲160
TEL: 089-999-1111 FAX: 089-999-1100